



Test Services

ユーザーガイド

注意

文書情報

文書番号 : D0015138ja
2022 年 4 月

著作権

© Agilent Technologies, Inc. 2022

本マニュアルの内容は米国著作権法および国際著作権法によって保護されており、Agilent Technologies, Inc. の書面による事前の許可なく、本書の一部または全部を複製することはいかなる形態や方法（電子媒体への保存やデータの抽出または他国語への翻訳など）によっても禁止されています。

Agilent Technologies, Inc.
5301 Stevens Creek Blvd.
Santa Clara, CA 95051

ソフトウェアリビジョン

このガイドは改訂版が発行されるまで Test Services のバージョン 3.5 以降に対応しています。

保証

このマニュアルの内容は「現状有姿」提供されるものであり、将来の改訂版で予告なく変更されることがあります。Agilent は、法律上許容される最大限の範囲で、このマニュアルおよびこのマニュアルに含まれるいかなる情報に関しても、明示黙示を問わず、商品性の保証や特定目的適合性の保証を含むいかなる保証も行いません。Agilent は、このマニュアルまたはこのマニュアルに記載されている情報の提供、使用または実行に関連して生じた過誤、付随的損害あるいは間接的損害に対する責任を一切負いません。Agilent とお客様の間に書面による別の契約があり、このマニュアルの内容に対する保証条項がここに記載されている条件と矛盾する場合は、別に合意された契約の保証条項が適用されます。

技術ライセンス

本書で扱っているハードウェアおよびソフトウェアは、ライセンスに基づき提供されており、それらのライセンス条項に従う場合のみ使用または複製することができます。

権利の制限

米国政府の制限付き権利について：連邦政府に付与されるソフトウェアおよび技術データに係る権利は、エンドユーザーのお客様に通例提供されている権利に限定されています。Agilent は、ソフトウェアおよび技術データに係る通例の本商用ライセンスを、FAR 12.211（Technical Data）および 12.212（Computer Software）、並びに、国防総省に対しては、DFARS 252.227-7015（Technical Data -Commercial Items）および DFARS 227.7202-3（Rights in Commercial Computer Software or Computer Software Documentation）の規定に従い提供します。

安全にご使用いただくために

注意

注意は、取り扱い上、危険があることを示します。正しく実行しなかったり、指示を遵守しないと、製品の破損や重要なデータの損失に至るおそれのある操作手順や行為に対する注意を促すマークです。指示された条件を十分に理解し、条件が満たされるまで、**注意**を無視して先に進んではなりません。

本書の内容

本書では、Test Services プログラムの使用方法について説明しています。

Test Services は、OpenLab CDS をインストールすると自動的にインストールされます。ライセンスなしで利用できる一連の検証テストも含まれます。QualA for OpenLab CDS ライセンスによって追加の CDS 検証テストが有効になります。

1 はじめに

本章では、Test Services の概要について解説します。

2 Test Services の使用方法

本章では、ログイン、テスト実行、およびレポート表示の方法について解説します。テストのスケジュールや電子メール通知設定の方法についても説明します。

目次

1 はじめに 5

概要 6

2 Test Services の使用方法 8

Test Services の使用方法 9

QualA テストのライセンス 9

Test Services へのログイン 9

Test Services のナビゲーション 12

Test Services テストの実行 13

OpenLab ソフトウェアインストールの確認 15

システムレポート 16

OpenLab セキュリティ検査（ライセンスが必要） 16

OpenLab ストレージシステム検査（ライセンスが必要） 18

OpenLab CDS ワークフロー検査（ライセンスが必要） 21

OpenLab CDS 通信検査 23

Test Services レポートのレビュー 24

検査レポートのコンテンツ 27

テストの中断 29

Test Services テストのスケジュール 30

テストスケジュールの作成 30

テストスケジュールの有効または無効 34

テストスケジュールの変更 34

テストスケジュールの削除 35

通知 36

電子メール通知の設定 36

通知を無効にする 38

通知を有効にする 38

通知レポート 39

1

はじめに

概要 6

本章では、Test Services の概要について解説します。

概要

Test Services は、ソフトウェアの検証およびシステムの機能を確認するためのシンプルなツールで、処理はすべて完全に自動化されています。Test Services は、コアとなる Test Services フレームワークと、その他の検証テストを追加するオプションのプラグインで構成されます。テストを選択して Test Services を実行すると、一連のテストが行われて、システムが設計どおりに動作しているかどうかを検証します。Test Services に含まれるテストを **表 1** に示します。一部のテストはデフォルトでインストールされ、ライセンスなしで有効になっています。テストには、インストールされていても、実行するには QualA ライセンスが必要なものもあります。

注記

Test Services を実行すると、そのシステムタイプ（AIC、クライアント、サーバー）で利用可能なテストにのみアクセスできます。インストールされていないプラグインに含まれるテストは表示されません。

表 1 Test Services で利用できるテスト

テスト	実行されるタスク	ワークステーション	Workstation Plus	サーバー / ECM XT	クライアント	AIC
システムレポート	- インストールされているアプリケーションおよびパッチの一覧をレポートします。 - 前回実行したシステムレポートからの変更を表示します。	利用可能	利用可能	利用可能	利用可能	利用可能
OpenLab セキュリティ検査	- パスワードポリシーを検証します。 - ロールのアクセス検査を実施します。 - アクティビティログを検証します。	利用可能（内部 / ドメイン認証）または無効（認証なし）（ライセンスが必要）	利用可能（ライセンスが必要・付属）	利用可能（ライセンスが必要）	推奨されません	推奨されません

表 1 Test Services で利用できるテスト (続き)

テスト	実行されるタスク	ワークステーション	Workstation Plus	サーバー / ECM XT	クライアント	AIC
OpenLab ストレージシステム検査	ストレージシステムの機能（ファイルおよびフォルダーの保存、保護、および管理）を検証します。	利用可能 (ライセンスが必要)	利用可能 (ライセンスが必要・付属)	OpenLab ECM および ECM Server/XT で利用可能 (ライセンスが必要)	推奨されません	推奨されません
OpenLab ソフトウェアインストールの確認	Software Verification Tool (SVT) を実行して、インストールされている Agilent ソフトウェアのバイナリファイルの整合性を検証します。	利用可能	利用可能	利用可能	利用可能	利用可能
ワークフローテスト (OpenLab CDS プラグインが必要)	プロジェクトおよび仮想 (Data Player) 機器を作成、シーケンスを追加、ソフトウェアアルゴリズムを検証します。	利用可能 (ライセンスが必要)	利用可能 (ライセンスが必要・付属)	利用不可	利用不可	利用可能 (ライセンスが必要)
通信検査 (OpenLab CDS プラグインが必要)	- システムのすべての AIC へのネットワーク接続 - AIC でコンフィグレーションされている機器への接続	利用可能	利用可能	無効	利用可能	利用可能

選択したテストを自動的に実行するためのテストスケジュールを作成することも可能です。必要に応じて、どこでテストを実行するかも選択できます（クライアント、AIC など）。

選択したユーザーへ電子メールを送信するよう通知を設定して、テストの実行と結果を通知することもできます。

2

Test Services の使用方法

Test Services の使用方法	9
QualA テストのライセンス	9
Test Services へのログイン	9
Test Services のナビゲーション	12
Test Services テストの実行	13
OpenLab ソフトウェアインストールの確認	15
システムレポート	16
OpenLab セキュリティ検査（ライセンスが必要）	16
OpenLab ストレージシステム検査（ライセンスが必要）	18
OpenLab CDS ワークフロー検査（ライセンスが必要）	21
OpenLab CDS 通信検査	23
Test Services レポートのレビュー	24
検査レポートのコンテンツ	27
テストの中断	29
Test Services テストのスケジュール	30
テストスケジュールの作成	30
テストスケジュールの有効または無効	34
テストスケジュールの変更	34
テストスケジュールの削除	35
通知	36
電子メール通知の設定	36
通知を無効にする	38
通知を有効にする	38
通知レポート	39

Test Services の使用方法

Test Services は、インターネットブラウザで、Test Services がインストールされている OpenLab CDS の AIC、クライアント、サーバー、ワークステーション、または Workstation Plus の URL を開いて開始します。

Test Services のユーザーインターフェイスを開く URL の例を以下に示します。

`https://hostname.domain.com/testservices`

クライアントシステムで、Test Services にローカルでアクセスするには `https://localhost:9092/` を使用する必要があります。リモートの Test Services にアクセスする必要がある場合は、`https://<client-fqdn>:9092/` を使用してください。クライアントシステムにファイアウォールが設定されている場合、ポート 9092 がオープンになっていることを確認してください。

QualA テストのライセンス

OpenLab CDS Workstation Plus システムには適用可能なすべてのライセンスが含まれています。その他の CDS 製品の場合、ライセンスを要するテストを実行するには、ライセンスを購入してインストールする必要があります。詳細については、『Test Services 管理ガイド』を参照してください。

Test Services へのログイン

ブラウザで Test Services URL を開くと、Test Services のログインページが表示されます。

注記

認証を「なし」に設定したファイルベースのワークステーションを使用している場合、ログインは不要です。

OpenLab CDS へのログインに使用している有効なユーザー名とパスワード（および必要に応じてドメイン）を入力し、**【ログイン】** をクリックします。

注記

インストール後に初めてログインする場合、フレームワークの OpenLab Server への登録を完了するために、OpenLab Shared Services 管理者ロールが付与されているユーザーでログインする必要があります。

初めてのログインを行った後は、[Test Services ユーザー] ロールが付与されたユーザーは、ログインし、ソフトウェアインストールの確認やシステムレポートを実行し、実行履歴から前の結果を表示することができます。

OpenLab セキュリティ検査と OpenLab ストレージシステム検査を実行するには、「セキュリティの管理」権限を含むシステム管理のロールが必要です。

権限を割り当てるためのユーザーアカウントの編集方法については、OpenLab CDS のオンラインヘルプおよび『Test Services 管理ガイド』を参照してください。

ログインすると、Test Services のホームページが表示されます。追加のライセンスが不要なテストが上部に表示されます。ライセンスが必要な QualA テストは、**QualA テスト**に表示されます。

デフォルトでは、推奨されるテストのみ表示されます。Test Services を実行するコンピューターで推奨されるかどうかにかかわらず、利用可能なテストをすべて表示するには、**[すべてのテストを表示]** をクリックします。6 ページの「Test Services で利用できるテスト」を参照してください。

Test Services
コンピューター: **QUALADEV**

システムのステータス: レディ

利用可能なテスト
前回の結果: **合格** (2022-04-20 15:13:33 +09:00)

テスト	前回の実行日	前回の結果
☐ OpenLab CDS 通信検査 OpenLab CDS 2.7 システム構成に含まれる機器の接続を確認します	2022-04-20 15:13:33 +09:00	合格
☐ OpenLab ソフトウェアインストールの確認 Agilent Software Verification Tool B.01.01.013 オリジナルのファイルが正しくインストールされていることを検証します	2022-04-20 15:13:33 +09:00	合格
☐ システムレポート コンピューターにインストールされているすべてのソフトウェアアプリケーションのレポートを作成します	2022-04-20 15:13:33 +09:00	合格
QualA テスト		
☐ OpenLab セキュリティ検査 (ライセンス取得済) OpenLab Shared Services 3.6.0 許可されたユーザーのみがシステムにアクセスできることを検証します	2022-04-20 15:13:33 +09:00	合格
☐ OpenLab ストレージシステム検査 (ライセンス取得済) ストレージのタイプ: Content Management ストレージシステムの機能 (ファイルおよびフォルダーの保存、保護、および管理) を検証します	2022-04-20 15:13:33 +09:00	合格
☐ OpenLab CDS ワークフロー検査 (ライセンス取得済) OpenLab CDS 2.7 CDS のワークフローおよび計算アルゴリズムを検証します (測定 → データ解析 → レポート)	2022-04-20 15:13:33 +09:00	合格

開始 停止

図 1 Test Services ホームページ

注記

ライセンスが必要な場合、テストを実行する前にライセンスがインストールされている必要があります。ライセンスはテストの初回実行時に取得され、(ライセンス取得済) と表示されます。

セキュリティ検査や OpenLab ストレージシステム検査の実行が完了した後も、ライセンスは取得済のままになります。(セキュリティ検査や OpenLab ストレージシステム検査が完了してもライセンスプールにリリースされません。)

テストの実行に必要なライセンスが不足している場合は、テストのステップ (ライセンス 'QlaSecurity' をチェック) でテストが不合格になります。

Test Services のナビゲーション

ホームページの左側にあるナビゲーションペインで、以下のタスクを選択してタスクを切り替えることができます。



ホーム

選択可能なテストのリストを表示します。実行するテストを選択したら、このウィンドウからテストを開始します。前回の実行結果を表示したり、前回の結果レポートにアクセスしたりすることもできます。



実行結果の詳細

現在実行中のテストについて、実行中の詳細なステップとステータスを表示します。



実行履歴

実行済みのテストのリストを表示します。日付の範囲を選択するか、フィルターを適用してレポートを開くことができます。



テストスケジュール

現在のテストスケジュールのリストを表示します。テストスケジュールの作成、編集、それらの有効 / 無効の設定、または削除ができます。



通知

通知設定を表示します。テスト実行の通知を有効 / 無効にする、および通知設定を定義できます。デフォルトでは、通知は無効になっています。



ヘルプとドキュメント

Test Services ユーザーガイドおよび管理ガイドへのリンクがあります。



ユーザーのログアウト。操作が行われないと、OpenLab Shared Services のセキュリティポリシーで定義されたタイムアウトが経過した時点で、ユーザーは自動的にログアウトされます。注記：認証を「なし」に設定したファイルベースのワークステーションでは、このボタンは表示されません。

Test Services テストの実行

注記

Test Services は、テストの要件を満たしているテストのみを有効にします。たとえば、OpenLab CDS とともにインストールされる Software Verification Tool がシステムにインストールされていない場合は、ソフトウェアインストールの確認は無効になります。

プラグインがインストールされている場合は、それらのテストが **【利用可能なテスト】** に表示されます。

テストの開始：

- 1 ホームページで、実行するテストのチェックボックスをオンにします (図 2)。すべてのテストを選択するには、**【テスト】** の横にあるチェックボックスをクリックします。

注記

システムの状態が **【レディ】** の場合は、テストを選択して開始することができます。**【実行中】** または **【中断中】** の場合は、進行中のテストが終了するまで待つ必要があります。

- 2 **【開始】** をクリックします。



図 2 ホームページからテストを開始

テストが開始されると、ホームページの上部にあるシステムのステータスが [実行中] に変わり、キューに追加されたテストの数などの追加情報も表示されます。

3 選択したテストのステータスを表示するには、[実行結果の詳細] ページを選択します。



Test Services
コンピューター: QUALADEV

システムのステータス: 実行中

実行結果の詳細
開始時間: 2020-11-05 14:48:18 +09:00 実行時間: 00:00:02

テスト	開始時間	ステップ (2/2)	ステータス
● OpenLab CDS 通信検査	2020-11-05 14:48:19 +09:00	テストを実行するためにユーザーの権限を確認	完了
● システムレポート	2020-11-05 14:48:19 +09:00	レポート作成	完了
● OpenLab セキュリティ検査			

停止

図 3 [実行結果の詳細] にテストの進行状況が表示

- 4 テスト名をクリックすると、そのテストの進行状況およびステータス（保留中 / 実行中 / 完了 / 中断中）が表示されます。
 - 5 テストを中断するには、**【停止】** をクリックします。
- 各テストの説明を以下のセクションに記載しています。

OpenLab ソフトウェアインストールの確認

Software Verification Tool（SVT）を実行して、インストールされている Agilent ソフトウェアのバイナリファイルの整合性を検証します。このテストはすべてのシステムで利用できます。

システムレポート

すべてのインストールソフトウェアを表示したシステムレポートを作成します。これには、マシンにインストールされたすべての更新プログラムとそのインストール日、バージョン情報が含まれます。前回システムレポートを作成した時からの変更はハイライト表示されます。このテストはすべてのシステムで利用できます。

OpenLab セキュリティ検査（ライセンスが必要）

OpenLab セキュリティ検査では以下を実行します。

注記

ドメイン認証プロバイダーを使用している場合は、セキュリティ検査を利用する前に設定を行う必要があります。詳細については、「[OpenLab セキュリティ検査の設定](#)」（17 ページ）を参照してください。

このテストでは、管理者と一般ユーザーの 2 つのユーザーが作成されシステムにインポートされます。

次に、作成 / インポートされたユーザーを使用して、OpenLab Shared Services (OLSS) で以下のセキュリティ検査が実行されます。

- 有効な資格情報で OpenLab Shared Services にログインできることを検証
- 無効なユーザー資格情報で OpenLab Shared Services にログインできないことを検証
- ログイン試行回数が多すぎるユーザーがロックされることを検証
- 管理者がロックされたユーザーをロック解除できることを検証
- 管理ユーザーで OpenLab Shared Services の管理者ロールのアクセス権限を検証
- 一般ユーザーで OpenLab Shared Services の制限されたアクセス権限を検証
- OpenLab Shared Service のパスワードポリシーをチェック（内部のみ）
- OpenLab Shared Services の検査中に実行した操作のアクティビティログのエントリをチェック

Content Management の場合、以下のセキュリティ検査が実行されます。

- OpenLab Shared Services ユーザーの作成 / インポート

- OpenLab Shared Services のパスワードポリシーを検証（内部のみ）
- OpenLab Shared Services へのログインを検証
- OpenLab Shared Services のロールのアクセス検査
- クリーンアップ：OpenLab Shared Services からのテストユーザーの削除。ドメイン認証の場合は、テストユーザーは、ユーザーが設定した場合のみ削除されます。
- 実行されたテストに対するアクティビティログエントリを確認。

ECM の場合、以下のセキュリティ検査が実行されます。

- OpenLab ECM でのユーザーの作成
- OpenLab ECM へのログインを検証
- OpenLab ECM のロールのアクセス検査
- OLSS へユーザーをインポート
- OLSS へのログインを検証
- OLSS のロールのアクセス検査
- クリーンアップ：OLSS からのユーザーの削除と OpenLab ECM でのユーザーアカウントの無効化
- OpenLab ECM でアクティビティログが有効になっている場合、すべてのテストのアクティビティログが確認されます。

OpenLab セキュリティ検査の設定

ドメイン認証プロバイダーを使用している場合は、OpenLab セキュリティ検査を実行する前に設定を行う必要があります。この場合は、ホームページの [OpenLab セキュリティ検査] の下に **【設定】** ボタンが表示されます。このボタンをクリックするとテストの設定フォームが開きます。フォームに、テスト実行に使用するテストユーザー（管理者および一般ユーザー）のユーザー資格情報を入力します。

検査の最後に、システムからこのテストユーザーを削除するよう選択することもできます。入力したデータは、後から使用できるように保存することもできます。

設定は一度実行されると、その設定がクライアント / サーバー環境のすべてのマシンにグローバルに適用されます。

注記

現在ログインしているユーザーをテストユーザーとして設定し、検査の最後にテストユーザーを削除するよう選択した場合、テストは不合格になります。システムは、現在ログインしているテストユーザーの削除を許可しません。（たとえば、自分自身をシステムから削除するとエラーが発生します。）

注記

クライアント / サーバー環境の場合、Test Services 管理者がいずれかのマシンでこの情報を設定すると、3 分以内にすべてのマシンにその情報が表示されます。

OpenLab ストレージシステム検査（ライセンスが必要）

この検査では、使用しているストレージシステムのタイプによって実行する検査が若干異なります。ストレージのタイプごとの検査内容に関しては、以下の説明を参照してください。

注記

ドメイン認証プロバイダーを使用している場合、OpenLab ストレージシステム検査を利用する前に設定を行う必要があります。詳細については、「[OpenLab ストレージシステム検査の設定](#)」（20 ページ）を参照してください。

OpenLab ECM の OpenLab ストレージシステム検査

OpenLab ストレージシステム検査では、OpenLab ECM に対して以下を実行します。

- フォルダー構造が作成できることを検証
- ファイルがアップロードできることを検証
- ファイルがダウンロードできること、およびデータインテグリティを検証
- ファイルを別のフォルダーに移動できることを検証
- ファイルにユーザー定義属性の割り当てが可能なこと、属性が保持されることを検証
- ファイルの関連付けが可能であること、関連付けを表示できることを検証
- 他のユーザーがチェックアウトしているファイルは、変更およびチェックインできないことを検証
- チェックインが成功するとカウントアップした新しいバージョンが作成されることを検証

- 他のユーザーがチェックアウトしているファイルには、署名を適用できないことを検証
- ファイルの署名権限を持たないユーザーはファイルに署名できないことを検証
- ファイルの署名権限を持つユーザーはファイルに署名できることを検証
- 存在する検索キーを使用し、クイック検索でファイルが検索できることを検証
- 存在しない検索キーを使用した場合はクイック検索でファイルがヒットしないことを検証
- フォルダーのクローンが作成できることを検証
- フォルダーを別のフォルダーに移動できることを検証
- フォルダー名の変更が可能であることを検証
- フォルダーの削除権限を持つユーザーはフォルダーを削除できることを検証
- フォルダーの削除権限を持たないユーザーはフォルダーを削除できないことを検証
- 検査中に実行した操作のアクティビティログエントリをチェック

OpenLab Server/ECM XT の OpenLab ストレージシステム検査

OpenLab ストレージシステム検査では、OpenLab Server/ECM XT に対して以下を実行します。

- フォルダー構造が作成できることを検証
- ファイルがアップロードできることを検証
- ファイルがダウンロードできること、およびデータインテグリティを検証
- ファイルを別のフォルダーに移動できることを検証
- 他のユーザーがチェックアウトしているファイルは、チェックアウトできないことを検証
- チェックインが成功するとカウントアップした新しいバージョン番号が作成されることを検証
- 他のユーザーがチェックアウトしているファイルに、署名を適用できるかどうかを検証
- ファイルの署名権限を持たないユーザーはファイルに署名できないことを検証
- ファイルの署名権限を持つユーザーはファイルに署名できることを検証
- 存在する検索キーを使用し、ファイル検索でファイルが検索できることを検証

- ・ 存在しない検索キーを使用した場合はファイル検索でファイルがヒットしないことを検証
- ・ コンテンツが含まれているフォルダーをコピーできることを検証
- ・ フォルダーを別のフォルダーに移動できることを検証
- ・ フォルダー名の変更が可能であることを検証
- ・ フォルダーの削除権限を持つユーザーはフォルダーを削除できることを検証
- ・ フォルダーの削除権限を持たないユーザーはフォルダーを削除できないことを検証
- ・ OpenLab ECM Server/XT へのファイルのチェックイン / チェックアウトテスト、および署名テスト中に実行した操作のアクティビティログのエントリをチェック

ファイルベース ワークステーションの OpenLab ストレージシステム検査

OpenLab ストレージシステム検査では、ファイルベースのワークステーションに対して以下を実行します。

- ・ フォルダー構造が作成できることを検証
- ・ ファイルがアップロードできることを検証
- ・ ファイルがダウンロードできること、およびデータインテグリティを検証
- ・ ファイルを別のフォルダーに移動できることを検証
- ・ ファイルがコピーできることを検証
- ・ ファイル名の変更が可能であることを検証
- ・ フォルダー構造を削除できることを検証

OpenLab ストレージシステム検査の設定

Content Management でドメイン認証プロバイダーを使用している場合、OpenLab ストレージシステム検査を実行する前に設定を行う必要があります。この場合は、ホームページの [OpenLab ストレージシステム検査] の下に [設定] ボタンが表示されます。



図 4 OpenLab ストレージシステム検査の [設定] ボタン

設定は一度実行されると、その設定がクライアント / サーバー環境のすべてのマシンにグローバルに適用されます。

ドメイン認証を用いた Content Management の場合

- 1 **【設定】** ボタンをクリックしてテストの設定フォームを開きます。
- 2 テスト実行に使用するテストユーザー（Test Services 管理者および一般ユーザー）のユーザー資格情報を入力します。
- 3 検査の最後にシステムからこのテストユーザーを削除するよう選択します。（オプション）
- 4 **【OK】** をクリックします。

注記

クライアント / サーバー環境の場合、Test Services 管理者がいずれかのマシンでこの情報を設定すると、3 分以内にすべてのマシンにその情報が表示されます。

OpenLab ECM をストレージプロバイダーとして使用している場合

- 1 **【設定】** ボタンをクリックしてテストの設定フォームを開きます。
- 2 デフォルトでは、**【ファイルをアップロードし検索することによりクイック検索機能を検証】** が選択されています。ファイルがストレージで処理およびインデックス処理が完了すると検索が可能になります。検査はこれらが完了するまで待機する必要があります。ファイルの処理およびインデックス処理がタイムアウトされるまでの待機時間を変更できます。（デフォルトは 300 秒で、最大値は 9999 秒です）
- 3 **【OK】** をクリックします。

OpenLab CDS ワークフロー検査（ライセンスが必要）

ワークフローテスト中に、Test Services はプロジェクトおよびバーチャル機器（Data Player）を作成し、シーケンスを実行して、ソフトウェアの計算アルゴリズムを検証します。

Test Services は、使用している OpenLab CDS のバージョンに対応したリファレンスファイルセットを使用します。必要なすべてのファイル（レポートテンプレート、シーケンス、測定メソッド、および解析メソッド等）は、Test Services のインストールと一緒にコピーされます。

ワークフローテストの終了時に、Test Services アルゴリズム評価および OpenLab CDS ワークフロー検査レポートが作成されます。Test Services 解析 アルゴリズム評価レポートのサマリーもサマリーレポートに含まれます。

OpenLab CDS ワークフロー検査に必要なライセンス

ワークフロー検査を実行するには QlaCDSWorkflow ライセンスが必要です。ワークフロー検査を実行するマシンごとに QlaCDSWorkflow ライセンスが 1 つ 必要です。ライセンスは、ワークフロー検査の初回実行時に取得され、ワーク フロー検査の完了後も取得されたままになります。（ワークフロー検査が完了 してもライセンスプールにリリースされません。）

テストの実行に必要なライセンスが不足している場合は、テストのステップ（ライセンス 'QlaCDSWorkflow' をチェック）でテストが不合格になります。

QualA ライセンスは、OpenLab コントロールパネルの [管理] タブにある [ライセンス] オプションからインストールします。ライセンスの数が不足し ている場合は、Agilent サポートにお問い合わせの上、追加のライセンスを取 得してください。OpenLab ライセンスのインストール方法の詳細については、OpenLab コントロールパネルのオンラインヘルプを参照してください。

必要なロールと権限

このテストを実行するために必要なロールと権限については、『Test Services 管理ガイド』の「必要なロールと権限」を参照してください。

実行されるワークフローのタスク

OpenLab CDS ワークフロー検査では以下を実行します。

- CDS のワークフローおよび計算アルゴリズムを検証します：測定 > データ 解析 > レポート
- Data Player を機器として使用して標準の 18 行のシーケンスを実行し、作成 された値と予測される値を比較します。
- キューへの追加機能を確認し、シーケンスを実行し、作成されたレポート が期待される結果と一致していることを確認します。
- 実行中のシーケンスを編集してサンプルカスタムパラメータを変更し、メ ソッドを変更します。
- 実行中のシーケンスを編集して測定メソッドを変更します。
- シーケンス測定中のシーケンスおよびメソッドに対する変更が監査証跡に 記録されていることを検証します。

OpenLab CDS 通信検査

クライアントの場合、この検査ではシステムが AIC へ接続できることを確認します。AIC、ワークステーション、または Workstation Plus の場合、この検査では AIC でコンフィグレーションされている機器へ接続できることを確認します。

必要なロールと権限

このテストを実行するために必要なロールと権限については、『Test Services 管理ガイド』の「必要なロールと権限」を参照してください。

実行される通信検査のタスク

OpenLab CDS 通信検査では以下を実行します。

- コンポーネント間のネットワーク接続を確認します：クライアント > AIC
- クライアントの場合、この検査ではシステムが AIC へ接続できることを確認します。AIC、ワークステーション、または Workstation Plus の場合、この検査ではマシンでコンフィグレーションされている機器へ接続できることを確認します。
- サーバーでは実行できません。

注記

接続されていない機器がある場合は、「1 つまたは複数の機器がこの AIC 接続されていません。機器名: ...」というメッセージが、接続されていない機器のリストと一緒に表示されます。

このメッセージが表示されている場合は、テストを実行する前に、切断された機器を接続してください。接続されていない機器があると、テストは不合格になります。

Test Services レポートのレビュー

テストが完了すると、ホームページまたは実行履歴ページから、テスト結果を入手できます。実行履歴ページには以前の結果も表示されます。

ホームページからレポートにアクセスする場合

前回のテストのレポートを表示するには、[利用可能なテスト] の下に表示される [前回の結果:] の右にあるリンクをクリックします。

例：

前回の結果 : 合格 (2018-10-05 11:39:58+02:00)

このリンクを選択すると、サマリーレポートを含め、前回の実行で作成されたすべてのレポートのリストが開きます。

たとえば、1 回のテストでセキュリティ検査とシステムレポートを実行した場合、このリンクから、セキュリティ検査レポート、システムレポートおよびサマリーレポートが表示されます。

特定のテストのレポートを表示するには、そのテストの [前回の結果] のリンクをクリックします。

このリンクを選択すると、そのテストによって作成されたすべてのレポートのリストが開きます（**セキュリティ検査**のリンクをクリックすると、セキュリティ検査レポートのみが表示され、サマリーレポートは表示されません）。

実行履歴ページからレポートにアクセスする場合

[実行履歴] ページでは、テスト結果がテーブル形式で表示されます。テストの実行日時、テストを実行したユーザー、テスト結果（合格、不合格、中断）と、Content Management または OpenLab ECM 内でのレポートの保存先が表示されます。

注記

ファイルベースのワークステーションの場合、テストを実行したユーザーは表示されません。

Test Services
コンピューター: QUALADEV

実行履歴

日付の範囲
開始 2020-10-05 終了 2020-11-05 ユーザー 結果

フィルター クリア

実行日時 ▼	ユーザー	結果	レポート
2020-11-05 13:04:52 +09:00	admin	合格	LOPC4695-Z4G4C-2020-11-05 13-04-52+09-00-P
2020-11-05 11:57:31 +09:00	admin	合格	LOPC4695-Z4G4C-2020-11-05 11-57-31+09-00-P
2020-11-05 11:10:18 +09:00	admin	合格	LOPC4695-Z4G4C-2020-11-05 11-10-18+09-00-P

図 5 実行履歴

結果のフィルター

表示されているフィールドを使用して、表示するテストをフィルターできます。

- 1 「日付の範囲」の下で、「開始」と「終了」の日付を選択すると、指定した日付の範囲で実行されたテストのみを表示できます。デフォルトでは、先月までのすべてのユーザーによるすべてのステータスのテストが表示されます。
- 2 「ユーザー」の下に、テストを実行したユーザー名を入力します。（ファイルベースのワークステーションの場合は利用できません）
- 3 「結果」の下の下矢印をクリックし、結果を選択してフィルターを適用します。選択肢には、合格、不合格、すべて、中断があります。
- 4 選択したフィルターを適用するには、「フィルター」をクリックします。
- 5 現在のフィルター条件をクリアしてデフォルトに設定するには、「クリア」をクリックします。

テストのレポートを表示

- 1 実行されたテストのリストからテストをクリックすると、利用可能なレポートが表示されます（図 6）。

The screenshot shows the 'Test Services' web application interface. On the left is a dark sidebar with icons for home, status, history, calendar, notifications, and user profile. The main header area displays 'Test Services' and 'コンピュータ: QUALADEV'. Below this, the '実行履歴' (Execution History) section shows a table of test runs with columns for date range, user, and status. The selected test run is highlighted in blue. To the right, the 'レポート' (Report) section shows a list of available reports for the selected test, including a summary report and various OpenLab CDS and Agilent OpenLab reports. The status of each report is indicated as '合格' (Pass).

実行履歴			レポート
日付の範囲 開始: 2020-10-05 終了: 2020-11-05 ユーザー:			すべてのレポートを ZIP 形式でダウンロード SummaryReport_LOPC4695-Z4G4C-2020-11-05-11-10-18+09-00.pdf 合格
実行日時 ▼ ユーザー 結果			OpenLab CDS 通信検査 CDSC_CDSCConnectivityTestReport_2020-11-05-11-10-18+09-00.pdf 合格
2020-11-05 13:04:52 +09:00	admin	合格	OpenLab ソフトウェアインストールの確認 SVT_OpenLab_CDS_2020.11.05.11.07.59.pdf 合格
2020-11-05 11:57:31 +09:00	admin	合格	SVT_Agilent_OpenLab_Audit_Trail_Service_2020.11.05.11.08.15.pdf 合格
2020-11-05 11:10:18 +09:00	admin	合格	SVT_Agilent_OpenLab_Certificate_Service_2020.11.05.11.08.28.pdf 合格
			SVT_Services_for_CM_2020.11.05.11.08.33.pdf 合格
			SVT_Agilent_OpenLab_Data_Collection_Agent_2020.11.05.11.08.37.pdf 合格
			SVT_Agilent_OpenLab_Data_Collection_Service_2020.11.05.11.08.52.pdf 合格
			SVT_Agilent_OpenLab_DataRepository_Base_2020.11.05.11.08.55.pdf 合格
			SVT_Agilent_OpenLab_ECM_XT_Import_Services_2020.11.05.11.09.01.pdf 合格
			SVT_Agilent_OpenLab_Shared_Services_2020.11.05.11.09.17.pdf 合格
			SVT_Agilent_Rapid_Control_.NET [3.9.0]_2020.11.05.11.09.20.pdf 合格
			SVT_OpenLab_ECM_XT_2020.11.05.11.09.52.pdf 合格
			SVT_Agilent_Test_Services_2020.11.05.11.10.16.pdf 合格
			システムレポート SYS_SystemReport_2020-11-05-11-10-18+09-00.pdf 合格

図 6 選択したテストのレポート

利用できるレポートが、テストの結果（合格 / 不合格 / 中断）と一緒に表示されます。

- 上部の「すべてのレポートを ZIP 形式でダウンロード」のリンクは、サマリーレポートを含め、選択したテストの実行によって作成されたすべてのレポートを ZIP ファイルにします。このリンクをクリックすると ZIP ファイルがローカルマシンにダウンロードされます。ローカルマシンで ZIP を展開してレポートを表示することができます。
- レポートを表示するには、レポート名をクリックします。レポートがローカルマシンにダウンロードされ、ローカルマシンでレポートを開いて表示できます。

検査レポートのコンテンツ

Test Services フレームワークで利用できるテストレポートは以下の通りです。

すべてのレポートに共通の項目

- ホスト名、ユーザー、日付、検査の総合判定（合格 / 不合格 / 利用不可）

システムレポート

このレポートは、PC に現在インストールされているすべてのアプリケーションのバージョン情報を記録しています。前回このレポートを作成した時からの変更内容はハイライト表示されます。レポートには以下のセクションが含まれます。

- システムの詳細
- 検出された変更のサマリー
- ソフトウェアアプリケーション
- 更新

OpenLab セキュリティ検査レポート

このレポートには、OpenLab セキュリティ検査の結果が含まれます。

- 製品およびバージョン（ある場合）
- 認証設定の詳細 - 内部、ドメイン、または ECM
- 検査用のユーザー / ロール
- 検査の結果

ソフトウェアインストールの確認レポート

OpenLab のソフトウェアコンポーネントごとに、以下を含む個別の SVT レポートが作成されます。

- ソフトウェアアプリケーションの詳細
- 以下の結果サマリー
 - ファイルレポートサマリー
 - GAC ファイルレポートサマリー
 - ファイルレジストレーションレポートサマリー
 - レジストリレポートサマリー

- インストールされたすべてのファイル
 - ファイルパス
 - インストールされているバージョン

OpenLab ストレージシステム検査レポート

OpenLab ストレージシステム検査レポートには以下の情報が含まれます。

- 検査の実行日時
- 検査を実行したユーザー
- ホスト名
- 検査の総合判定
- 検査した製品とバージョン（OpenLab ECM または Content Management）
- 製品の設定（認証プロバイダー、アクティビティログ ON/OFF など）
- 検査用のユーザーと割り当てられたロール
- テスト設定の詳細
- 検査手順のステップとステータス（合格 / 不合格）
- アクティビティログの確認

サマリーレポート

サマリーレポートには、同時に実行された一連のテスト結果のサマリーが含まれます。

OpenLab CDS 通信検査レポート

このレポートが作成できるのは、OpenLab CDS プラグインがインストールされている場合のみです。OpenLab CDS 通信検査を実行すると作成されます。

CDS 通信検査レポートには、OpenLab の各コンポーネントと機器間の通信の検証の結果が含まれます。

解析アルゴリズム評価レポート（OpenLab CDS ワークフロー検査）

OpenLab CDS ワークフロー検査を実行した場合に、このレポートが作成されます。期待される結果、測定結果、判定（合格、不合格など）を含む、検査によって検証されたすべての解析アルゴリズムの評価が含まれます。

ワークフロー検査レポート

OpenLab CDS ワークフロー検査を実行した場合に、このレポートが作成されます。CDS のワークフローおよび計算アルゴリズムの検証が含まれます（測定 > データ解析 > レポート）。

テストの中断

ホームページまたは [実行結果の詳細] ページからテストの実行プロセスを中断できます。

ホームページから Test Services テストプロセスを中断するには

- **【停止】** ボタンをクリックします。

[実行結果の詳細] ページからテストを中断するには

- **【停止】** をクリックします。

中断は直ちに行われない場合があります。中断されると、表の現在のステップに、テストが中断中であることが示されます。

注記

[停止] ボタンによって、1 つのテストだけでなく、テスト全体が中断されます。

テストを停止するには、「Test Services の実行」権限のみ必要です。（テストを開始するには、「Test Services の実行」権限に加え、そのテストに必要なその他の権限が必要です。）

テストを中断した場合の動作

- 中断中はシステムのステータスが「中断中」に変わります。
- 「保留中」および「実行中」のテストステータスが「中断中」に変わります。（完了したテストのステータスは「完了」のままです。）
- 「中断」のステータスでサマリーレポートが作成されます。
- テストの中断によって終了したテストの結果は、「なし」と表示されます。
- 終了したテストの結果は「合格」または「不合格」と表示され、これらのテストで作成されたレポートはダウンロードして表示することができます。

Test Services テストのスケジュール

Test Services ではテストをスケジュールすることができます。設定するとマシンでテストが自動的に実行されます。

- 複数のテストをスケジュールできます。推奨されるすべてのテスト、または、ユーザーが選択したテストセットを設定できます。スケジュールしたテストに対して必要なパラメータを指定することもできます。
- クライアント / サーバー環境の場合、1 つ以上のターゲットマシンを選択してスケジュールを適用できます。選択肢は、すべてのマシン、すべての機器コントローラ、すべてのクライアント、サーバー、マシンを指定です。
- テストは、テストスケジュールを作成または変更したユーザーの資格情報を使用して実行されます。
- テストスケジュールの作成、編集、および削除を行うには、ユーザーが Test Services 管理者ロールを持っている必要があります。
- テストスケジュールの作成、編集、および削除は、OpenLab Shared Services のシステムログに記録されます。スケジュールを設定すると、Test Services にログインしているかどうかにかかわらず、スケジュールされたテストが実行されます。

テストスケジュールの作成

テストスケジュールは、**[テストスケジュールの設定]** ページから作成または変更します。このページは、Test Services ナビゲーションのカレンダーアイコンをクリックすると表示されます。

テストスケジュールがない場合、空白のテストスケジュールが表示されます。以下の手順でテストスケジュールを作成できます。

すでに テストスケジュールがある場合は、テストスケジュールのリストが表示されます。



Test Services

コンピューター: **QUALADEV**

テストスケジュール

✓ 有効 ○ 無効 ✕ 削除 + 追加

☐ テスト ▼	説明	トリガー	ステータス
☐ システムテスト	システムテスト (毎日)	開始時間: 2020-11-06 15:00:00 +09:00, 1 日ごと	有効 
☐ 定期チェック	定期チェック (毎週)	開始時間: 2020-11-16 09:00:00 +09:00, 1 週ごとの日曜日に実行	有効 

図 7 テストスケジュールのリスト

テストスケジュールを作成するには、**[追加]** をクリックし、以下の手順で新しいテストスケジュールを設定します。

Test Services
コンピュータ: QUALADEV

テストスケジュールの設定

テストが自動的に実行されるようにスケジュールします。

スケジュール名:
スケジュールするタスクの名前を 124 文字以内で指定します。この名前は [スケジュールタスク] タブに表示されます。

スケジュールの説明:
スケジュールするタスクの詳細を入力します (入力任意)。この説明は [スケジュールタスク] タブに表示されます。

テスト選択:
実行するテストを選択します。

マシン選択:
テストを実行するマシンを選択します。

スケジュール スケジュールするタスクの実行時間と頻度を指定します。

図 8 テストスケジュールの設定

テストスケジュールを設定するには、

- 1 スケジュール名を入力します。
- 2 スケジュールの説明を入力します (オプション)。
- 3 **【テスト選択】** ドロップダウンから、実行するテストを選択します。

【すべてのテストを実行】 は、利用可能なすべてのテストを実行します。

【推奨テストをすべて実行】 は、テストを実行するマシンに対して推奨されるすべてのテストを実行します。

【実行するテストを選択】 を選択すると、すべてのテストから実行するテストを選択するメニューが開きます。

- 4 **【マシン選択】** ドロップダウンで、以下から選択します。

すべてのマシン

すべての機器コントローラ

すべてのクライアント

サーバー

【マシンを指定】 を選択すると、スケジュールを実行するマシンを選択できます。

- 5 スケジュールするタスクの実行時間と頻度を指定するには、**【スケジュール】** の横にあるカレンダーアイコンをクリックします。

テストスケジュールの変更

スケジュール時間を指定して実行

開始日時: 2020-11-05 15:30:00 +09:00 

☐ 開始時間をランダムにする
指定された時間から 30 分以内の範囲でスケジュールの開始時間をランダムにします。

☒ タスクを繰り返す

繰り返し: 毎週 ▼

繰り返し間隔: 1 週

繰り返しパターン: ☐ 日 ☒ 月 ☐ 火 ☐ 水 ☐ 木 ☐ 金 ☐ 土

終了: 無期限 ▼

サマリー: 開始時間: 2020-11-05 15:30:00 +09:00, 1 週ごとの月曜日に実行

図 9 テストスケジュールの設定と変更

- 【開始日時】** の横にあるカレンダーアイコンをクリックし、スケジュールを開始する日と時刻を選択します。
- 指定した開始時間から 30 分以内の範囲でスケジュールをランダムに開始するには、**【開始時間をランダムにする】** を選択します。

- c テストを繰り返す間隔を設定するには、**【タスクを繰り返す】** を選択します。
 - d **【毎時間】**、**【毎日】**、**【毎週】**、または **【毎月】** を選択し、繰り返しの間隔を設定します。
【毎週】 の場合、実行する曜日も選択します。
【毎月】 の場合、繰り返し単位を日にち、または曜日から選択します。
 - e スケジュールの終了日を選択します。終了日なしでスケジュールを続行するには、**【無期限】** を選択します。スケジュールするタスクの終了日を指定するには、**【指定日】** を選択します。
 - f 選択したオプションのサマリーが表示されます。**【OK】** をクリックして選択を承認します。
- 6 スケジュールが完了したら、**【保存】** をクリックします。

テストスケジュールの有効または無効

テストスケジュールを有効または無効するには：

- 1 Test Services ナビゲーションでカレンダーアイコンをクリックして **【テストスケジュール】** ページを開きます。
- 2 テストスケジュールリストで、有効または無効にするテストスケジュールを選択します。
- 3 上部にある **【有効】** をクリックして、選択したテストスケジュールを有効にするか、**【無効】** をクリックして無効にします。

テストスケジュールの変更

テストスケジュールを変更するには：

- 1 カレンダーアイコンをクリックして **【テストスケジュール】** ページを開きます。
- 2 テストスケジュールのリストから、変更するテストスケジュールの右側にある **【編集】** ボタン  をクリックします。
- 3 **「テストスケジュールの作成」**（30 ページ）に示されている手順で、テストのスケジュールを変更します。

テストスケジュールの削除

テストスケジュールを削除するには：

- 1 カレンダーアイコンをクリックして **【テストスケジュール】** ページを開きます。
- 2 テストスケジュールのリストから、削除するテストスケジュールを選択し、ページの上部にある **【削除】** をクリックします。
- 3 テストスケジュールを完全に削除するには、確認画面で **【はい】** をクリックします。

通知

Test Services にサマリーレポートの送信を設定すると、テストの実行後に電子メールでサマリーレポートを送信できます。以下のように通知を設定できます。

- 毎日のサマリーを電子メールで送信する
- 毎週のサマリーを電子メールで送信する
- 電子メール通知の受信者を 1 人以上指定する

注記

電子メールは OpenLab Shared Services を使用して送信されます。まず、OpenLab コントロールパネルを使用して電子メール設定を行ってください。電子メールが Shared Services で設定されていない場合、エラーメッセージが発生し、電子メールは送信されません。OpenLab コントロールパネルでの電子メールの設定方法については、OpenLab CDS のオンラインヘルプを参照してください。

電子メール通知の設定

- 1 Test Services ナビゲーションで、通知アイコンをクリックします。
- 2 **【通知設定】** ウィンドウが開きます。デフォルトでは、通知は無効になっています。
- 3 通知を有効にするには、**【有効】** をクリックします。これにより通知を設定するためのフィールドがアクティブになります。

注記

電子メール通知を設定するには、最初に OpenLab CDS コントロールパネルで電子メールサーバーを設定しておく必要があります。

Test Services
コンピュータ: QUALADEV

通知設定
ここで全体の通知設定を定義します。現在の Test Services の環境に適用されます。

通知:
テスト結果を通知するレポートの送信を有効または無効に設定します。

メール送信先:
メールアドレスを入力してください。複数のアドレスを入力する場合はセミコロン";"で区切って入力します。以下の設定に従って選択されたレポートおよび通知を指定のメールアドレスに送信します。

テスト実行レポート: ☐ テスト結果のデイリーレポート・送信時間: 00:00
☐ テスト結果のウィークリーレポート・送信時間: 00:00 - 月曜日
完了したテストのサマリーおよび結果を送信します。デイリーレポートの場合は直近の 24 時間、ウィークリーレポートの場合は直近の 7 日分が含まれます。
レポートの送信時間を 24 時間形式 (hh:mm) で指定してください。例: 午後 6:30 の場合は "18:30" を入力します。

通知を直ちに送信: ☐ エラーが発生したら直ちに通知する
☐ 警告が発生したら直ちに通知する
テストでエラーまたは警告が発生した場合に、テストの実行レポートを直ちに送信します。

通知オプション: ☐ テストの実行レポートから合格した検査の詳細を除外する
☐ 通知の送信回数を制限 5 回 (直ちに送信する回数) / 60 分
合格した検査の詳細をテスト実行レポートから除外する場合や、直ちに送信する通知レポートの回数を制限する場合のオプションを設定します。

図 10 通知設定

- 4 **【メール送信先】** ボックスに、1 つ以上の電子メールアドレスを、セミコロンで区切って入力します。指定した電子メールアドレスに、以下のセクションで指定したオプションに従ってシステムから通知が送信されます。
- 5 **【テスト実行レポート】** セクションのどちらかを選択、または両方を選択します。
 - ・ **【テスト実行結果のデイリーレポートを送信】** - 前日（午前零時まで）に実行されたすべてのテストのデイリーレポートを、結果を含めて送信します。
 - ・ **【テスト実行結果のウィークリーレポートを送信】** - 前の週（月曜日から日曜日まで）に実行されたすべてのテストのウィークリーサマリーレポートを送信します。

- 6 [通知を直ちに送信] セクションで、いずれかまたは両方を選択します。
 - ・ [エラーが発生したら直ちに通知する] - エラーが発生したら電子メールを送信します。
 - ・ [警告が発生したら直ちに通知する] - 警告が発生したら電子メールを送信します。
- 7 [通知オプション] セクションで、通知のオプションを選択します。
 - ・ [テストの実行レポートから合格した検査の詳細を除外する] - 不合格になった検査の詳細のみを含めます。
 - ・ [通知の送信回数を制限] - 指定した時間内（単位は分）における、通知を直ちに送信する回数を、指定の回数に制限します。
- 8 終了したら、[保存] をクリックします。

通知を無効にする

すべての電子メール通知を無効にするには、

- 1 Test Services ナビゲーションで、通知アイコンをクリックします。
[通知設定] ウィンドウが開きます。
- 2 通知を無効にするには、[無効] をクリックします。これにより通知を設定するためのフィールドと、[保存] ボタンが無効になります。

通知を有効にする

いったん無効化した通知を有効にするには、

- 1 Test Services ナビゲーションで、通知アイコンをクリックします。
[通知設定] ウィンドウが開きます。
- 2 通知を有効にするには、[有効] をクリックします。これにより通知を設定するためのフィールドと、[保存] ボタンがアクティブになります。新しい通知を設定するか、既存の通知を編集することができます。

通知レポート

通知レポートは、指定されたアドレスに電子メールで送信されます。通知レポートには、通知期間中に実行されたテストのサマリーと、そのレポートへのリンクが含まれます。

注記

レポートを表示するには、指定されたマシンにログインすることが必要な場合があります。

通知によって送信されたテスト実行結果のデیلیーレポートの例を以下に示します。

検査ステータスサマリー

不合格	0
利用不可	3
中断	1
合格 (注記あり)	0
合格	12

不合格 (0)

コンピューター	実行日時	要した時間	検査
---------	------	-------	----

利用不可 (3)

コンピューター	実行日時	要した時間	検査
SR-CDS2-AIC.scs.agilent.com	2020-11-05 15:55:38 +09:00	00:06:52	OpenLab CDS ワークフロー検査
SR-OLSS-CS.agilent.com	2020-11-05 15:50:35 +09:00	00:01:48	OpenLab ストレージシステム検査
SR-OLSS-CS.agilent.com	2020-11-05 16:04:30 +09:00	00:00:09	OpenLab セキュリティ検査

図 11 通知によって送信された Test Services デイリーレポート

本書の内容

本書では、Agilent Test Services の使用方法について説明しています。

www.agilent.com

© Agilent Technologies, Inc. 2022

文書番号 : D0015138ja

2022 年 4 月

